

新世界史

世探706
B5変型判(230mm×174mm) 410頁 予価860円

【著作者】

- 羽田 正 東京大学特任教授
 - 岸本 美緒 お茶の水女子大学名誉教授
 - 久保 文明 東京大学名誉教授・防衛大学校長
 - 南川 高志 京都大学名誉教授・佛教大学特任教授
 - 小田中直樹 東北大学教授
 - 勝田 俊輔 東京大学教授
 - 千葉 敏之 東京外国語大学教授
 - 丹羽 敬 元愛知県立明和高等学校教諭
 - 小川 正樹 函館ラ・サール高等学校教頭
 - 加藤 修治 武蔵高等学校教諭
 - 岸本 次司 元鳥取県立鳥取西高等学校教諭
 - 岡本 聡 白陵高等学校教諭
- 株式会社 山川出版社

- 図版(写真) 487点
- 地図 141点
- グラフ・図表 26点
(グラフ8+図10+表8)
- 文字資料 20点
- 二次元コード 30点

message



羽田 正
(はねだまさし)

東京大学特任教授

新しい学習指導要領では必修の「歴史総合」と世界史科目の「世界史探究」が設置されました。歴史学習の導入としての新しい科目「歴史総合」にはいくつかの目標があります。なかでも、1. 現代の成り立ちを理解するために過去に問いかけるという歴史的な見方や考え方の基本を身に付けること、2. 近現代世界の構造とその中での日本の位置について学ぶことの2点は特に重要です。これらを学んだ高校生がさらなる「世界史探究」のために手に取るのがこの教科書です。

私は、この教科書がこのような高校生の期待に十分に答えることができるものに仕上がっていると確信しています。その理由をご説明しましょう。

1つは、この教科書がグローバル化をみすえた現代にふさわしい最新の世界史の見方を提示しているからです。執筆者は、専門の時代や地域を越えて学界の最先端の研究状況を互いに確認し合い、「現代における世界史」という観点から今何を教科書に盛り込むべきかについて徹底的に意見を交換しました。そして、複数の執筆者がバラバラにその知見を記すのではなく、相互の叙述を関連させ、全体として世界の過去の動きが総合的に理解できるように工夫しました(→p.74)。また、世界各地の過去を地域ごとに時間の流れに沿って縦に叙述するとともに、同時期における世界各地の動き、つまり横の関係性や共時性を十分に意識した記述を心がけました。この教科書の本文を通読すれば、世界全体の過去があたかも経糸と緯糸を編み合わせた1枚の織物のようにくっきりと浮かび上がってくるでしょう。

もう1つは、教科書の各所にちりばめられた発問によって大きな学習効果が得られるからです(→p.77)。これらの問いはすべて「歴史総合」で身に付けた歴史的な見方や考え方をさらに高度化するために作成されています。生徒たちは、解答を準備する過程で、各時代や地域の過去についてさらに深い知識を得るとともに、現代世界を理解するために必要なヒントを手に入れることができるでしょう。各部や章の冒頭と末尾に置かれた問いは、その時代の世界全体の構造や地域社会の特徴、さらには歴史の流れを把握することに大いに役立つはずで、最新の世界史の見方を取り入れたこの教科書で学んだ生徒たちが、獲得した歴史の力を使って現代世界で活躍してくれることを期待しています。

考える歴史の時代に向けて 新しく生まれ変わった『新世界史』

1 現代世界を知るための歴史的視座を養う教科書

- 歴史の流れがわかりやすい記述、出来事の**歴史的背景**が理解できるように意識した叙述に努めました。
- 世界史を学ぶうえで**キーとなる概念**や、**現代の諸問題の背景**となる事項について、70を超える「コラム」を設けて、深掘りし、難関大入試の論述対策にも使えるくわしい解説をしています。 (→p.74)

2 「考える」「理解する」「追究する」教科書

- 400近くの問いを用意しました。各章の冒頭にはその章の**重要事項に関わる問い**を、章末には**まとめとなる問い**を置き、歴史の大きな流れを構造的に意識できるよう工夫しています。
- 本文中にも数多くの問いを設け、生徒が自身で調べ、考え、発見することを通して、**歴史的な考え方や課題の追究の仕方**を学べるよう留意しました。 (→p.76)

3 図版・地図・史資料を読み解く力がつく教科書

- 「資料から考える」のコーナーをもうけました。写真や地図、図表で読み解く技能が身につくような発問も付しています。
- 文字資料も20ほど用意し、それぞれに問いを付し、**読み解く視点**を示しました。 (→p.80)



岸本美緒
(きしもとみお)

お茶の水大学名誉教授

「何のために世界史を学ぶのか」という問いにはさまざまな答えがあるでしょうが、正面から答えるならば、「私たちが生きているこの世界の成り立ちを理解し、広い視野から物事を判断できるようになるため」ということができるでしょう。本書は、次の時代を担うべき高校生の皆さんの世界史学習の意欲にまっすぐに応え、細かい知識よりも骨太な世界史の流れを、そして今日につながる諸問題の歴史的背景を理解していただくために作成された世界史の教科書です。

本書は、2014年に新しく刊行された『新世界史』の特色を受け継ぎつつ、このたびの「世界史探究」の課題に対応することを目指しています。本書の内容はかなり詳しいと感じられるかもしれませんが、その目的は、多数の人名や事項名の暗記を求めることではなく、さまざまな事象の意味やその間の脈絡をできる限りわかりやすく説明し、理解してもらうことにあります。本書を使用する皆さんが、大事だと思う点を自らの頭で確認し、印をつけたり線をひいたりしながら使っていただければ幸いです。

全体の構成は、世界各地の動きの共時性を念頭に置いて、大きく五部に分けてあります(→p.72)。各部の冒頭では、世界全体を見渡した問題の提示と解説・設問をおこない、各部の重要問題を、諸地域相互の関連と比較のもとに整理して把握できるように工夫しました。

そのほか、本書の大きな特色は、世界史を学ぶ上でポイントとなる重要な事項や概念についてのより深い理解をめざし、コラムを設けてかなり詳しい説明をおこなっている点です(→p.75)。これらの事項は、現代の世界のあり方にも深くかかわる問題を含んでいます。少し難しいと思われる内容でも、地理や日本史、政治・経済など、他の科目とも関連させつつ学習していただくことによって、日常接するニュースの背景や、現在当然だと思われる事象の成り立ちが歴史的な奥行きをもって把握でき、立体的な世界像の形成に寄与し得るものと期待しています。

以上、「考える」「理解する」世界史教科書という点に重点をおいた本書の意図をご了解いただき、その特色を活用して授業・学習をおこなっていただくことを願っています。

目次と配当時間例

全体を5つの部に分け、立体的な世界史像を提供します。



目次

月
時
数
配
当
時
間
例

4月/8

5月/8

6月/11

4

第I部 世界史へのまなざし 8

第I部は地球と人類の関係史を考察し、また日常と歴史を結びつけて考察することを通じて、みずからの立ち位置を確認させ、歴史の学習を始める導入にあたります。

- 第1章 人類の歴史と私たち 8
 - 1 地球環境からみる人類の歴史 9
 - 2 日常生活からみる世界の歴史 13

第II部は古代文明が誕生してから、世界各地に国家や帝国が生まれる時代を扱います。

第II部 諸地域の歴史的特質の形成 16

- 第2章 古代文明の特質 18
 - 1 文明の誕生 20
 - 2 古代オリエント 22
 - 3 古代の南アジア・東南アジア・オセアニア 26
 - 4 古代の東アジア 30
 - 5 アフリカと南北アメリカ 34
- 第3章 アジア諸地域の国家と社会 37
 - 1 中国帝政国家の形成 38
 - 2 北方ユーラシアの動向 44
 - 3 分裂と融合の時代 47
 - 4 隋唐帝国と東アジア 52
 - 5 南アジア・東南アジア 57
- 第4章 西アジアの帝国と古代ギリシア 63
 - 1 古代西アジアの帝国 64
 - 2 古代ギリシア 67
 - 3 ヘレニズム時代 72
- 第5章 古代ローマ 75
 - 1 ローマの発展と帝国形成 76
 - 2 ローマ帝国の繁栄とキリスト教 79
 - 3 ローマ帝国の衰退 84
- 第6章 ヨーロッパの形成とイスラーム教の誕生 87
 - 1 古代から中世へ 88
 - 2 カール大帝とヨーロッパ 92
 - 3 イスラーム教の誕生とカリフの政権 97

2章では、およそ紀元前3世紀あたりの古代文明が形成される頃までを扱います。アフリカや南北アメリカについても紹介しています。

3~6章でおよそ10世紀あたりまでの諸地域の歴史的特質を紹介します。

第III部は地域世界が経済的、文化的に結びつきを強めていく10~18世紀あたりを扱います。

第III部 諸地域の交流・再編 104

- 第7章 結びつくユーラシアの諸地域 106
 - 1 イスラーム教とムスリム政権の広がり 107
 - 2 宋と周辺諸国 113
 - 3 モンゴル帝国 120
- 第8章 キリスト教ヨーロッパの成熟と交流 125
 - 1 教皇権の確立と十字軍 126
 - 2 ヨーロッパの膨張と成熟 133
 - 3 ヨーロッパの危機と再生 142
- 第9章 交易の進展と東アジア・東南アジア 151
 - 1 東西交流の動向 152
 - 2 明代の朝貢世界 156
 - 3 大交易時代の東アジア・東南アジア 160
- 第10章 アジア諸地域の再編 165
 - 1 オスマン朝 166
 - 2 サファヴィー朝とムガル朝 170
 - 3 清朝支配の拡大 175
 - 4 清朝の近隣諸地域 180
- 第11章 ヨーロッパの成長と世界の一体化 183
 - 1 ヨーロッパ人の海洋進出 184
 - 2 世界の一体化とその進展 188
 - 3 近世の始まり 192
 - 4 宗教改革 197
 - 5 主権国家体制の成立 201
 - 6 オランダの覇権から英・仏の抗争へ 206
 - 7 北・東ヨーロッパの動向 212
 - 8 近世ヨーロッパの思想と社会 216

7・8章がいわゆる「中世」、9章が「大航海時代」を前に繁栄するアジアです。

10・11章がいわゆる「近世」を扱います。

イスラームは、その誕生と広がり別部となりましたが、第II部の最後と第III部の最初に扱っているため、つなげて教えることができます。

7月/11

9月/9

10月/10

5

配当時間例

第IV部は欧米諸国が新しい政治・経済・社会の仕組みを構築し他地域に進出する様子を描き、この攻勢に対して対応や抵抗を試みるアジア・アフリカ各地の状況が語られます。世界各地の動きが密接に連動している点にも重点が置かれています。

第IV部 諸地域の結合・変容 220

- 第12章 国民国家と近代民主主義社会の形成 222
 - 1 商業社会と産業革命 223
 - 2 アメリカ革命 226
 - 3 フランス革命とナポレオン 230
 - 4 反動と改革 236
 - 5 1848年の諸革命 241
- 第13章 新国家の建設と世界市場の形成 245
 - 1 アメリカ合衆国の発展 246
 - 2 ラテンアメリカとカナダ・オーストラリア・ニュージーランド 251
 - 3 イギリスとフランスの繁栄 255
 - 4 クリミア戦争とヨーロッパの再編 258
- 第14章 アジア諸地域の動揺 265
 - 1 西アジアの動揺 266
 - 2 南アジア・東南アジアの動揺 271
 - 3 東アジアの動揺 276
- 第15章 帝国主義と世界 283
 - 1 現代社会の特質 284
 - 2 帝国主義と列強 286
 - 3 アジアの民族運動 293
- 第16章 第一次世界大戦 303
 - 1 第一次世界大戦とロシア革命 304
 - 2 ヴェルサイユ体制と欧米諸国 310
 - 3 アジアの動向 316
- 第17章 第二次世界大戦と諸地域の変容 325
 - 1 世界恐慌とファシズム 326
 - 2 第二次世界大戦 336
 - 3 戦後の世界と冷戦 341
 - 4 アジアにおける冷戦 345
 - 5 冷戦の展開 351

「近代」の流れは今までと大きく変わりませんが、社会の変革の背景や原因、結果や影響、それぞれの関連性を重視して記述し、発問を設けています。

第V部は20世紀後半から今日に至る世界の動きを、50年代、60年代……といった年代ごとに描いています。

第V部 地球世界の課題 357

第V部は現代世界の課題に直結する歴史です。国際紛争・経済格差・科学技術の進展・文化の変容など、テーマ別に探究できる記述となっています。

- 第18章 第三世界の形成と世界経済の動揺 358
 - 1 第三世界自立の模索 359
 - 2 世界経済の動揺と第三世界の動向 364
- 第19章 今日の世界 369
 - 1 紛争解決への取り組みと課題 370
 - 2 経済のグローバル化と格差の是正 377
 - 3 科学技術の高度化と知識基盤社会 387

課題学習 地球世界の課題の探究 392

索引 394

表見返し 世界の自然・世界の気候区分
裏見返し 現代の世界

コラム 70を超える、歴史を深掘りするコラムを用意しています！

民族集団「漢族」の形成 33	琉球とマラッカ 158	三角貿易の背景 277
華夷思想 39	北虜南倭 161	帝国主義の時代 292
儒学と皇帝政治 42	デヴシルメとイエニチェリ 168	アジアの民族運動と日本 302
司馬遷と「史記」 43	イスファハーンは世界の半分 171	第一次世界大戦の歴史の意味 309
遊牧国家の特質 46	ヨーロッパからみた中国 179	国際平和の思想と国際連盟 309
朝貢体制 51	近世日本の対外関係 181	ロシア革命とソ連の体制問題 315
長安の都 55	生物交換と「伝統文化」 188	パレスチナ問題の起源 317
仏教の展開 57	近世ヨーロッパ国家と王位継承 194	第一次世界大戦後のアジアの民族運動 320
インド洋海域世界 59	近世ヨーロッパと戦争 205	日本の植民地統治 324
ヒンドゥー教 60	啓蒙の諸相 217	ヒトラーとナチ党 329
軍事大国スバルタ 70	エネルギー革命 225	歴史の教訓 335
ヘレニズム 73	アメリカ合衆国建国の特徴 229	日米開戦 338
ローマ市民権と「ローマ人」 81	複合革命 232	大戦中の戦局と外交 340
ローマ帝国社会の変容 85	大西洋革命 233	冷戦 343
ローマ教皇 91	国民国家とナショナリズム 239	日本の敗北と占領 347
イスラーム教 97	経済学の時代 240	ハンガリーの悲劇 355
スンナ派とシーア派 101	選挙制度 244	「ニクソン＝ショック」とニクソン外交 365
イスラーム教と男女平等 112	白人入植による新社会 249	核軍縮 371
科挙 119	アメリカ合衆国の特殊性 250	黒人大統領の登場 376
十字軍 130	移民の流れ 254	2つの和解の試み 379
荘園制と村落 132	植民地主義 257	人権と人権外交 379
俗語とラテン語 135	ロシア「大改革」 259	イランをめぐる国際情勢 381
ユダヤ人 141	サン＝シモン主義 264	中国と南シナ海・東シナ海 386
ルネサンス 150	アフガーニーとパン＝イスラーム主義 270	
ソグド人 155	インド社会とイギリスの支配 273	

予備2
合計時間数 105

1. 現代世界を知るための歴史的視座を養う教科書

歴史の背景や影響に踏み込んだ叙述が「新しい世界史」の視点を育む

叙述を重視

たんに固有名詞を連ねて出来事を羅列するのではなく、

①出来事の歴史的背景や影響が理解できる

②現代世界がどのように成り立ってきたのかを考察させるといったことを意識して叙述されています。まさに「世界史探究」にふさわしい内容です。

歴史学の議論に踏み込んだ記述もありますが、丁寧に叙述されていますから、高校生でも十分に理解できます。



ヴェルサイユ条約の調印 かつてヴィルヘルム1世がドイツ帝国の成立を宣言した(→p.262)パリ郊外のヴェルサイユ宮殿「鏡の間」が会場に選ばれた。前列左から5人目がアメリカのウィルソン大統領、その右がフランスのクレマンソー首相、イギリスのロイド＝ジョージ首相。

ヴェルサイユ体制の成立

1919年1月、連合国はパリ講和会議を開催して、賠償や戦後の秩序について交渉したが、

この会議で合意されたヴェルサイユ条約で定められた原則にもとづいて構築されたヨーロッパの秩序をヴェルサイユ体制という。ここではウィルソン大統領の十四カ条提案が強い影響力を発揮し、これまでヨーロッパの国際関係にはなかった画期的な原則が、この会議で盛り込まれた。

その最たるものは、集団安全保障の思想を制度化した国際連盟の設立である。不十分な点が多いとはいえ、ある加盟国に対する攻撃をすべての加盟国に対する攻撃とみなし、攻撃された国を防衛する義務を負わせるという仕組みは、国際社会の歴史ではじめての試みであった。民族自決の原則が国際社会で明確に支持されたのも、はじめてであった。この結果、オーストリア＝

産業革命の影響は、さらに生活様式・政治制度・社会構造などに波及した。力をつけた産業資本家は、才能・勤勉・財産・理性などを尊び、これらの原理にもとづく政治・社会改革を要求した。また、工場は広大な土地を必要とするため農村部に立地することが多かったが、これらの地域では、工場の周囲に労働者が集住することによって都市化が進んだ。こうして出現した都市(工業都市)や初期の工場内部では衛生環境が悪く、伝染病など様々な社会問題が生じた。

もっとも、産業革命の進行度は産業部門ごとに異なっていた。また、家内制手工業生産を担う手工業者・職人は、産業革命の進行に抵抗するため職人組合に結集し、機械の破壊や暴動に訴えた。

2 明代の朝貢世界

14世紀の東アジア

14世紀に入ると北半球全体で異常気象が続き、ヨーロッパでの凶作や疫病とほぼ時を同じくして、東ア

ジアでも自然災害による飢饉がおこり、元朝の中国支配はゆらぎはじめた。中国では、白蓮教徒による紅巾の乱をきっかけに、各地で反乱がおこった。貧しい農民出身の朱元璋は、反乱のなかで頭角を現し、儒学の素養をもつ知識人の協力を得て、支配を広げ、1368年、南京で皇帝の座につき、国号を明とした(洪武帝、廟号は太祖)。明軍に追われた元の帝室はモンゴル高原に退き(北元)、明は南京を都として中国を統一した。

第一次世界大戦の歴史的意味

第一次世界大戦は、戦前が進んだ産業革命の成果を、どの程度経済的に享受できたかという点で、バルカン半島の小さな事柄が4年以上も続く予想外であった。兵器の高度化もめざましかった。機関銃・戦車・毒ガス・戦闘機は戦場を大量殺戮の場にかえた。同時に、この戦争は軍人だけが従事する戦いではなく、経済力を含め国家の総力をあげた戦いとなり、民間人も全面的に巻き込まれた戦争となったという意味で、全体戦争であり、総力戦であった。政府は経済統制を強め、また食料配給制などを導入した。膨大な数の戦争の犠牲者が出たが、これも予想の範囲外であった。戦争の終わり方も、当初の予想外であ

った。戦前が進んだ産業革命の成果を、どの程度経済的に享受できたかという点で、バルカン半島の小さな事柄が4年以上も続く予想外であった。

兵器工場で働く女性 イギリスの砲弾製造工場に働く女性たち。男性労働者の多くが前線に送られたため、軍需工場に働く女性が増加した。その生産力が戦争を左右するようになり、戦後に女性の社会進出をうながした。



イタリアのトマト料理 イタリアにトマトが伝えられた最初はボモドーロ(黄金のリンゴ)と呼ばれ贅食用であったが、ナポリの屋台で細麺をゆで、煮詰めたトマト汁とチーズをかけたのがトマト普及の始まりだとい

や天然痘、そしてマラリアは中南米社会に壊滅的影響をもたらしたが、このうちもっとも根本的だったのは、未知の生物の到来によるものである。とくに農作物では、ジャガイモやサツマイモ・トウガラシ・インゲン豆・トマト・ピーナッツ・トウモロコシ・タバコ・カボチャ・カカオなどが「新大陸」からもちこまれて、ヨーロッパに根づいた。これらの多くは東アジアにも伝わった。逆にヨーロッパ人が「新世界」にもちこんだ農作物にサトウキビやコーヒーがあり、これらを生産するために大農園が開発されて黒人奴隷が運びこまれた。こうした生物交換は、農作物に限らず病原体でもみられ、ヨーロッパ人とともに到来したインフルエンザ

や天然痘、そしてマラリアは中南米社会に壊滅的影響をもたらしたが、このうちもっとも根本的だったのは、未知の生物の到来によるものである。とくに農作物では、ジャガイモやサツマイモ・トウガラシ・インゲン豆・トマト・ピーナッツ・トウモロコシ・タバコ・カボチャ・カカオなどが「新大陸」からもちこまれて、ヨーロッパに根づいた。これらの多くは東アジアにも伝わった。逆にヨーロッパ人が「新世界」にもちこんだ農作物にサトウキビやコーヒーがあり、これらを生産するために大農園が開発されて黒人奴隷が運びこまれた。こうした生物交換は、農作物に限らず病原体でもみられ、ヨーロッパ人とともに到来したインフルエンザ

国際連盟は1920年に発足した史上初の国際平和機構であり、スイスのジュネーブに本部をおいた。第一次世界大戦の反省のうへに、アメリカのウィルソン大統領の強いイニシアティブのもとに設立された。しかし、アメリカは上院が批准を拒否したために連盟に加盟できず、またドイツやソ連も最初は加盟を認められない(それぞれ26年と34年に加盟)など、当初から誤算続きであった。早くも33年には日本とドイツが、37年にはイタリアが脱退し、39年にはソ連がフィンランド侵略のため除名となっている。発足当初の常任理事国はイギリス・フランス・イタリア・日本であった。ただし、常任理事国に強力な権限を与えた国際連合(→p.341)と異なり、総会が最高決定機関

国際平和の思想と国際連盟

国際連盟は1920年に発足した史上初の国際平和機構であり、スイスのジュネーブに本部をおいた。第一次世界大戦の反省のうへに、アメリカのウィルソン大統領の強いイニシアティブのもとに設立された。しかし、アメリカは上院が批准を拒否したために連盟に加盟できず、またドイツやソ連も最初は加盟を認められない(それぞれ26年と34年に加盟)など、当初から誤算続きであった。早くも33年には日本とドイツが、37年にはイタリアが脱退し、39年にはソ連がフィンランド侵略のため除名となっている。発足当初の常任理事国はイギリス・フランス・イタリア・日本であった。ただし、常任理事国に強力な権限を与えた国際連合(→p.341)と異なり、総会が最高決定機関

とされ、またその決定は全会一致であることが要求されていた。そのために、決定をくだすのは容易でなかった。また、連盟として軍隊を組織することはできず、発動することができるもっともきびしい制裁も経済制裁にとどまっていたため、侵略を抑制し、あるいは実効的な制裁を科すことができなかった。しかし、常任理事国に対しても制であり、この点はそれが実質的に不都合よりすぐれているとの指摘もある上初の国際的な集団安全保障機構と第二次世界大戦後に設立された国際連合をもとに様々な修正を加えて制

国際連盟は第一次世界大戦の反省のうへに設立されたものであったが、その後の国際政治においてどの程度果たした役割があったか。

充実したコラム

本書の大きな特徴は「コラム」にあります。歴史を現代世界にかかわる問題としてとらえ、歴史の理解に必要なと思われるテーマを詳しく説明しています。

本文を中心とした授業を3単位で進め、生徒が授業を振り返りながら「コラム」を読むことで、主体的な学習の態度を身につけることができます。コラムに付された問いも、考察の一助となるでしょう。

2. 「考える」「理解する」「追究する」教科書 各章の学習の流れ

深く追究する問いが重層的に思考力を磨く

この教科書では、世界の歴史を4つの大きな枠組みで分け、第II部から第V部として、その展開を紹介します。各部の扉は、その時代の展開にかかわる出来事の意味や意義、特色を多面的・多角的に考察するためのエピローグとなっています。

第II部 諸地域の歴史的特質の形成

ローマ帝国の元を築いたユリウス・カエサルが1世紀末に著した作品「アグリコラ」には、帝国の属州となったブリテン島の属州総督アグリコラの活躍が記されている。イタリヤから遠く離れた領土でのローマ人の活動をみてみよう。

この地方の人々は、てんでに散らばって住み、粗野な生活を営んでいるためにすぐに戦争を起す気持になる。こうした民族を快適な生活を通じて、平和と馴れなじませようとする。あるいは個人的に富を得たいは公的に援助したりして、神殿や市場や家を建てさせた。……酋長の子弟に教育を受けるが、實に磨きをかけた。……その結果、いままでローマ人の言葉・ラテン語を拒否していた人まで、ローマの権威を熱心に学ぼうとした。こんな風にしてローマの服従を尊重されるようになり市民権が流行した。そして次第に構成員にそれだと思ふ人々を誘うもの、たとえば遊説者、娯楽、豪華な宴会に耽る。これを何も知らない原住民は、文明化と呼んでいたが、じつは奴隷化を示す一つの特色でしかなかった。(タキトゥス『歴史』「ゲルマニア アグリコラ」)

資料からの問い

- 資料からローマ人が生み出した文化が何かをさがし出し、その性格を考えてみよう。
- ローマ帝国の支配は被征服地にどのような影響をもたらしたのだろうか。属州となっていた諸地域がローマ帝国にどう変わったか、考えてみよう。

部扉

第II部では、人類最古の文明の誕生から始めて、古代の諸地域の文化形成の過程を学ぶ。古代において、人類は実に多くのものを生み出した。人々は今日の政治や社会の基礎的な仕組みやそれに関する考え方をつくり出し、現代世界でも多数の人々の信仰を集める仏教、儒教、キリスト教なども古代に誕生した。イスラム教もこうした古代の宗教の影響を受けて、7世紀に成立したのである。

古代が残した人類史上も重要な事績の1つは、「国家」の創出である。人類は、前3千年紀以降、現代生活の始原といえる都市的な生活を世界各地で生み出し、そうした都市から国家が誕生した。人類最初の国家は、おおむね都市国家の形態をとったのである。その後、ほとんどの地域では都市国家はより大きな国家へと統合されていき、さらにそれらの国家も強大な軍力をもつ国家に組み込まれた。広大な地域を領有し人々の集団を多数支配する「帝国」の出現である。

古代に現れた帝国のうち、地中海周辺地域を中心にアルプス以北のヨーロッパ内陸部や中東地域まで支配したローマ帝国と、東アジアに統一国家を現出させた秦漢帝国とは、その広い領土を中央集権的な支配のもとにおいただけでなく、法にもとづく統治や官僚、そして宗教を背景にした支配の理念まで備えた点で特記に値し、後世にもその価値が継承された。

帝国は悲惨な戦いをともなう征服活動で多くの人々を支配下に入れたが、

第III部 諸地域の交流・再編

13世紀後半、ユーラシア大陸を陸路・海路でめぐり大旅行をおこない、モンゴルの元朝に17年仕えたヴェネツィア出身の商人マルコ・ポーロの有名な「世界の記述」(『東方見聞録』)をみてみよう。

カンパルクの町(元の首都の大都、現在の北京)はその内外に、ほとんど信じておけないほど多数の家屋と人口を擁している。……城外の街には城内より多くの人間が居住し、宿泊している。それとはちがって商人たちが旅行中の外国人であるが、その数は多く、彼らはあらゆる地方から大商人(富者の大長官、ここでは元朝皇帝のクビライを指す)に献上するため、ないし官廷に送るために品物を運んできたのである。……このカンパルクの町には、世界中のどの町にも増して貴重で高価で珍しい品物が到来する。しかも、そのすべての品物について膨大な量が運び込まれるのである。……箱だけに限って見ても、毎日少なくとも1000台の荷車がこの町に入ってきて、その前から大量の金糸の糸糸の織物などが生産される。(『東方見聞録』)

資料からの問い

- モンゴル帝国時代に、マルコ・ポーロをはじめとするヨーロッパ人が東方との貿易を活性化させたのはなぜか、考えてみよう。
- 15世紀のヨーロッパ人は、経済的・文化的に繁栄していたアジアなどのような事象で貿易をおこなおうとしたか、考えてみよう。

部扉

第III部では、諸地域がどのように結合し変容するかを考えます。扉ではマルコ・ポーロの資料をとりあげ、交易の拡大、都市の発達、文化・思想の伝播などを読み取り、考えることができます。

第IV部では、人々の国際的な移動や貿易の広がりなどにより、いかに諸地域が統合され、変容したかを考えます。扉では福沢諭吉の『西洋事情』を資料として取り上げ、近代化の理念とその背景となる歴史を読み取り、考えることができます。

章ごとの学習の流れ

章扉

第4章 西アジアの帝国と古代ギリシア

多くの民族が興亡した西アジアでは、周辺民族を服従させる帝国が出現した。しかし、帝国の統治には、絶対的な王の権力や強力な軍力だけでなく、様々な工夫が必要であった。アカイメネス朝は整備された組織、交通路などによりインダス川からエーゲ海におよぶ史上例のない巨大帝国を出現させた。一方、エーゲ海周辺ではギリシア人の移動と定着の結果、ポリスと呼ばれる都市国家が形成された。また、ギリシア人は植民活動や交易を通じて地中海周辺地域と交流し、高度な文化を発展させた。ヘロドトス戦争以降ポリス社会が変質するなかで、アレクサンドロス大王により空前の大帝国が建設され、ギリシアの文化と西アジアの文化が融合し、新しい文化が生み出された。

各章の扉に、章の内容の導入文とともに、その章の内容を問題意識をもって読み進めていくための問いを用意しました。生徒は、その問いに基づき仮説を立てながら、「何を学ぶか」「何に注目すべきか」を知ることができます。

本文

1 古代西アジアの帝国

古代西アジアの統一

メソポタミア北部からエジプトにかけての地域に、鉄製の武器や騎馬となり、前7世紀中頃までにエジプトを含む広大な領土を統治する行政組織を整え、駅伝式強引移住政策は服属する人々の反乱をまねき、領内にはリュディア・新バビロニア・メディア4王国が分立した。

資料からの問い

- 西アジアに大帝帝国を建設したアカイメネス朝は、どのように統治し、後世に及ぼす影響を与えたのだろうか。
- ギリシアのポリス社会では、どのように政治・経済・文化が発展していったのだろうか。
- ヘレニズム時代の政治や文化について、それ以前のギリシアの政治や文化とどのような違いがあると考えられるだろうか。

2 古代ギリシア

ポリスの成立と発展

ミケーネ文明崩壊後、ギリシア人の居住地では同時代の文字の記録がない暗黒時代と呼ばれる時期が約400年間続いた。この間にギリシアは鉄器時代に移行し、前8世紀になると、各地にポリスと呼ばれる共同体が生まれた。ポリスは、人々が丘(アクロポリス)の上に守護神をまつる神殿を建て、その麓に寄り集まって居

資料からの問い

- ギリシアに成立したポリスと中国に成立した都市(邑)を比較した時、どのような共通点と相違点があるだろうか。

3 ヘレニズム時代

アレクサンドロス大王の東方遠征

ポリス世界が混迷を深めている頃、ギリシア北方のマケドニア王国が台頭し、国王フィリップ2世は軍事力を強化して、勢力を拡大した。マケドニアの進出に対するギリシア内での対応はまちまちで、また傭兵に頼って国防意識の薄れた市民たちはみずからマケドニアに対抗する行動に出なかった。前338年、マケドニア軍がギリシアに侵襲してようやくアテネはテーバイなど他のポリスと連合し、マケドニア軍に戦いを挑んだが、カイロネアの戦いで敗れた。翌年、フィリッポス2世はギリシア諸ポリスとコリント同盟(ヘラス同盟)を結成した。これにより、ギリシアの諸ポリスは自由と自治を維持したが、

資料からの問い

- マケドニア人はギリシア人の一派であるが、ポリスを形成せず、王国を建てた。
- アテネでは、弁論家デモステネス(前384～前322)がマケドニアの脅威にギリシア諸ポリスを結束して抗するよう

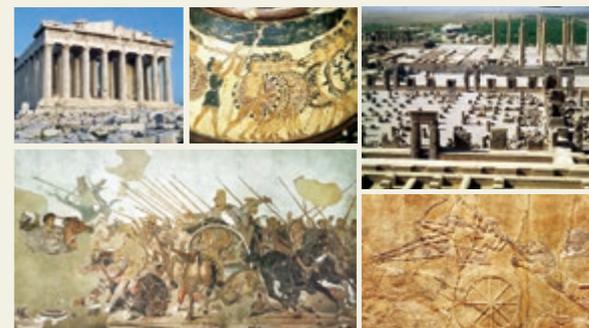
章末

章末の問い

- アテネで、直接民主政が発展した経緯についてまとめてみよう。
- ペルシア戦争後、ギリシアのポリス社会は大きく変化していった。その理由は何だろう。
- ギリシア文化が後世に与えた影響でもっとも重要な要素は何だろう。

本文では、各所に着眼点となる問いを示しています。「相違点を整理してみよう」「原因は何だろう」など、考察の方向性も指し、思考を促す問いとなっています。

章の最後に「探究」の問いを用意しました。「まとめてみよう」「理由を考えよう」といった問いでは、生徒が主体的に学習に取り組むことができますし、「後世に与えた影響は何だろう」といった問いでは、生徒が現代社会に結びつけて考察することができます。



2.「考える」「理解する」「追究する」教科書——テーマごとの学習の流れ

問いを意識して本文を読む、図を見る

本文は全体ページ数の6割ほどで、歴史の流れをわかりやすく記述しており、3単位で授業をおこなうことが可能です。

問いと本文をセットで読む

本文脇の問いで、着眼点を確認した上で、本文を読み進めましょう。ここでは具体的な歴史の事象を学びながら、集団の自立性が崩れる原因がどのようなことか、自由と自治が削がれる経緯などを歴史から学ぶことができます。

本文の流れを妨げないよう、補足的な事項は注で扱っています。

3 ヘレニズム時代

ギリシアのポリスは、マケドニアに敗れてポリスとしての自立性を失っていた。その原因は何だろう。

- ① マケドニア人はギリシア人の一派であるが、ポリスを形成せず、王国を建てていた。
- ② アテネでは、弁論家デモステネス(前384～前322)がマケドニアの脅威にギリシア諸ポリスが結束して抗しよう訴えたが、同じく弁論家イソクラテス(前436～前338)はフィリッポスがギリシア統合の中心となってペルシアへ遠征するよう期待した。



アリストテレス マケドニア国王の侍医の子として生まれ、アテネのプラトンの学園アカデミアで学んだ。マケドニア国王フィリッポス2世のまねきで、若きアレクサンドロスの家庭教師をつとめた。

- ③ 大王はペルシアの言語や風習を取り入れもしたが、王に平伏して挨拶するペルシア風の拝跪礼はマケドニア人の反発をまねいた。

アレクサンドロス大王の東方遠征 ポリス世界が混迷を深めている頃、ギリシア北方のマケドニア王国が台頭し、国王フィリッポス2世は軍事力を強化して、勢力を拡大した。マケドニアの進出に対するギリシア内での対応はまとまらず、また傭兵に頼って国防意識の薄れた市民たちはみずからマケドニアに対抗する行動に出なかった。前338年、マケドニア軍がギリシアに侵攻してようやくアテネはテーバイなど他のポリスと連合し、マケドニア軍に戦いを挑んだが、カイロネアでの戦いで敗れた。翌年、フィリッポス2世はギリシア諸ポリスとコリントス同盟(ヘラス同盟)を結成した。これにより、ギリシアの諸ポリスは自由と自治を維持したが、マケドニア軍が駐留して監督することになったので、ポリスの自主独立の体制は名目的なものとなった。

フィリッポス2世の息子アレクサンドロス(大王)が王位につくと、彼は父王の遺志を継ぎ、マケドニアとギリシア諸ポリスの連合軍を率いて、前334年に東方遠征に出発した。アレクサンドロスが率いる軍は、アカイメネス朝のダレイオス3世の軍を幾度も破って敗走させ、ペルシア帝国の崩壊を決定づけた。前330年のアカイメネス朝滅亡後もアレクサンドロスは遠征を続け、遠征軍はインダス川を渡ってインド西北部にまで到達した。

こうして、マケドニアとギリシア本土に加えオリエント諸地域もアレクサンドロスの支配下に入った。王は征服した各地にアレクサンドリアという名の都市を建てるとともに、行政の整備につとめ、マケドニア人とペルシア人の結婚を奨励するなど、広大な地域の支配に適合する民族の融和を試みた。が、帝国統治の仕組みが整わないうちに熱病で急死した。

ヘレニズム時代の諸王国と文化 大王の死後、その領土をめぐって部下の將軍たちのあいだで争いがおこり、大王の遺領は分割され、エジプトにはプトレマイオス朝の王国、シリア以東の西アジア地域にはセレウコス朝の王国ができた。ギリシアの諸ポリスは、マケドニアの支配から脱しようとしたが失敗し、アテネは富裕者による寡頭政に移行させられ、民主政は終わりを告げた。

アレクサンドロスの東方遠征から大王領の後継国家最後のプトレマイオス

「資料から考える」

スポットライトを当てたい地図・図版・図表のために、「資料から考える」というコーナーを用意しました。たとえば「アレクサンドロス大王の東方遠征ルート」の地図も、問いとあわせて見ると、教科書p.65のアカイメネス朝の領土すべてに自ら赴き、獲得しようとしていることが分かります。



写真を拡大して見てほしいもの、図の全体像を見てほしいものなどに二次元コードを設けています。ここではイッソスの戦いの全体はリンク画面で確認し、どこにアレクサンドロスが描かれているかを知ることができます。

資料から考える 東方遠征



イッソスの戦いの場面に描かれたアレクサンドロス大王 イタリアのボンベイ出土のモザイク画。

アレクサンドロス大王の東方遠征のルートを地図で確認し、その目的を考えてみよう。



ヘレニズム

ヘレニズムという言葉は、キリスト教的伝統を表すヘブライズムに対して西洋のギリシア文化的伝統を指すために用いられることもありますが、歴史学では19世紀ドイツの歴史家ドロイゼンが提唱した歴史概念に従って用いられる。この概念では、アレクサンドロスの東方遠征以降、ローマが支配権を樹立するまでの期間を世界史的に重要な時期としてヘレニズム時代と呼ぶ。またアレクサンドロスの帝国やその後継国家の広大な空間に、オリエントの文化がギリシア文化の影響を受けて独自の文化を形成したので、それをヘレニズム文化と呼んでいる。ドロイゼンは東西の民族の混雑に力点を置いている。しかし、アレクサンドロスの東方遠征やその後の支配は実際には広大な地域のごくわずかにしかおよびず、支配

者のマケドニア人やギリシア人が活動した範囲も都市を中心に限定されていたから、ギリシア文化がオリエントに普及して両文化が融合したといっても、その程度は限られていた。また、早くも前3世紀の終わり頃になるとオリエントの側の要素が強まって、ギリシア文化が衰退するようになる。ドロイゼン以来、この概念にはヨーロッパ人のオリエント観がまわりついており、研究もヨーロッパの側から一方的にオリエントを観察して、彫刻などにギリシア芸術の特徴を発見するようなかたちでなされてきた。しかし、これはその時代と地域を正確に理解するには不十分であり、現在の歴史学界では、概念の歴史的性格を把握したうえで、オリエント側からの研究が進むことが期待されている。

アレクサンドロス大王の大帝国の支配は、アカイメネス朝の地域で有効であったらうか。

深掘り「コラム」

歴史の鍵となる用語、現在の歴史研究の動向、現代世界との関連性などをコラムで深掘りします。ここでは本文で大筋の流れを学んだ「ヘレニズム時代」の「ヘレニズム」とは何かを解説しています。アレクサンドロスが理想を掲げた大帝国支配は、実際にどのような結果となったか、ここでも歴史はいろいろな示唆を与えていることを読み解くことができるでしょう。

3. 図版・地図・史資料を読み解く力がつく教科書

豊富な図版

480点ほどの写真、170点ほどの地図・図表を付し、「資料から考える」のコーナーを設けることで、歴史を視覚的に理解できるよう留意しました。

カラーユニバーサルデザイン

地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用しました。



アズハル=モスク エジプトを征服したファーティマ朝は新都カイロを造営し、その中心にアズハル=モスクを建設した。72年に併設されたマアズハル学院はイスラム最盛期の教育機関で、現在でもイスラム教の最高峰である。



10世紀のイスラム世界

段が限られていた当時、ウマイヤ朝やアッバース朝の領域は、一人の君主が統治するには広すぎた。また地方政権が誕生した地域は、もともと地理的・文化的にひとまとまりの単位であったので、分権化が進むのは自然な流れであった。アッバース朝の時代になると、その領域全体で、アラビア語が行政のための言語として使用されるようになり、人々が日常的に使う言語も徐々にアラビア語にかわっていった。現在、アラビア語を話す人々が西アジアから北アフリカに広く分布しているのはその結果である。一方、サーマーン朝の領域である中央アジアやイラン高原東部では、9世紀末頃から住民の日常語であるペルシア語が、行政の言語としても用いられはじめた。各地でアラビア語の重要性が増す一方で、このように、一部の地方では言語の面でも自立がみられるようになった。

地方政権の1つとしてカスピ海南岸に成立したプワイフ朝は、シーア派の政権であり、アッバース朝カリフの命に従わなかった。プワイフ朝の君主は946年にバグダードを攻略したが、カリフを廃さず、その権威を利用して大アミール(大將軍)となり、政治・軍事の実権を握った。

プワイフ朝と同じ頃にチュニジアにおこったシーア派のファーティマ朝は、969年にエジプトを征服し、新都カイロを建設した。この王朝の君主は、シーア派の最高指導者を自認し、カリフを名乗って、アッバース朝の権威に挑戦した。

このように、10世紀から11世紀にかけては、イラン高原から北アフリカにかけての地域で、

後ウマイヤ朝の都コルドバのモスク コルドバのモスク(メスキータとよばれる)はイスラム教のモスクであったが、現在はキリスト教の大聖堂になっている。柱は他の建物からもってきたため寸法があわず、天井との隙間をうめる工夫として、独特の二重アーチが採用された。



102 第6章 ヨーロッパの形成とイスラム教の誕生

文字資料

文字資料は20ほど用意しています。それぞれに問いを付し、読み解く視点を示すことで、資料を読み解く技能が習熟するよう工夫しました。

資料から考える

①イブン=バットゥータ「大旅行記」(1326年)

ダマスカスにおけるワクフは、その種類において、またその支出額においても算定出来ないほどの数である。[例えば]その1つに、メッカ巡礼に行けない人たちのために[特別に設定された]、幾つものワクフがある。これは、彼らのなかの巡礼に行こうとする者に対して、十分な[旅行]費用をワクフから提供するものである。また娘たちの結婚準備のために用意されたワクフがある。これは、娘たちに十分な準備をしてやれない彼らの家族のために提供されるワクフである。さらに捕虜となった者を保釈するためのワクフや、旅人たちに食べ物、衣類や彼らの国へ[戻るための]旅の必需品類を提供するワクフがある。道路を整備・舗装するためのワクフもあるが、これは、ダマスカスの路地道はすべてその両側に、歩行者たちが通る舗装部分があるためである。一方、駄獣に乗った人たちは、その中間の道を通る。さらに、それら以外にも慈善事業を目的として[設定された]幾つものワクフがある。

(イブン・ジュズアイ編、家島彦一訳注「大旅行記1」より、一部改変)

Q▶資料①のなかにもみられる「ワクフ」とはどのような制度のことだろうか。

②イナーヤト=ハーン「シャージャハーン=ナーマ」(1658年)

燦然たる墓廟(タージ=マハル)が[完成に要した]12年のあいだに、その費用として500万ルピーを費やしたことは紛れもないことである。また墓廟の周辺には数々の広場や宿泊所、商店が設けられ、宿泊所の背後に多くの食品製造工房も設立された。…かくしてこの燦然たる墓廟に設けられたワクフ制度によって、もし修繕が必要な場合にはこの寄進財産の収益でもってその支出に充当し、残余は[墓廟関係の]年俸受給者および月俸受給者に支給されるとともに、墓廟に仕える人々やその他困窮者たちのための必要な支出に充てられる。剰余が生ずれば、この墓廟の豊かな財庫に繰り入れられる。

(歴史学研究会編「世界史資料2」、一部改変)

Q▶資料②について、タージ=マハルの維持においてワクフはどのように運用されているか。

シーア派の政権があいついで成り立ち、アッバース朝に改宗することはほとんど派に属していた。

イベリア半島の後ウマイヤ朝(711-756)は、10世紀後半には、3世紀にムスリムの政権が誕生してのムスリムが従っていたが、

章末の問い

- ① ロマ帝国が支配していた地中海でいった。その経緯を整理しつつ、考えてみよう。
- ② カール大帝の皇帝冠は、中世ヨーロッパの象徴として、中世ヨーロッパの文化を代表している。その経緯を整理しつつ、考えてみよう。
- ③ ムスリムの政権のもとで、アラブ文化、整理してみよう。
- ④ カリフの地位と役割は、時代とともに変化した。整理してみよう。

二次元コードの活用

探究活動のために読み解くべき図版、参考動画を中心に、二次元コードを活用した資料を30個設けました。教科書の写真を拡大したり、他の場面を見たりすることができます。

多角的視点

宋代の開封の様子を、回想録や絵画、地図など多様な史資料から多角的にとらえ、当時の社会を考察できます。

資料から考える 「清明上河図」と宋代の庶民生活



「清明上河図」北宋の都開封の繁栄を描いたとされる絵巻物。張擇端作。図は城内の商店街で、買物客・行業客であふれている。(呉玉根本)



開封の都市計画図(想定) (伊原弘「中国開封の生活と歳時」をもとに作成)

Q▶「東京夢華録」は南宋の人、孟元老が、北宋の開封の様子を記した回想録である。宋代の開封と唐代の長安での庶民生活の違いをあげてみよう。

「清明上河図」

Q▶どのような人々や動物がいて、どのような店が立ち並んでいるだろうか。

孟元老「東京夢華録」

(街路には)それぞれ茶店や居酒屋、芝居小屋や飲食店がある。市中の商人の家では、食事ごとにそういう飲食店から料理を取って間に合わせ、家には惣業を用意しない者が多い。…繁華な場所になると、朝まで店を閉めない。普通の場末の辺鄙なところでも、午前0時頃になると、茶瓶を下げたお茶売りが出てくる。というのは、都の人は公私の仕事が忙しくて、夜更けてやっと帰宅するからである。(久義高・梅原部訳注「東京夢華録」)

料や薬品類が中国へ輸出された。廣州・泉州・明州(寧波)などの港には市舶司がおかれ、積荷検査や課税など海上貿易を管理した。

教師用指導書 授業実践編

世探706準拠

B5判 480頁・付属データ集DVD-ROM付 定価22,000円(10%税込)

『新世界史』を使った授業実践にご活用いただける材料を盛り込みました。

教科書の節ごとに「授業のポイント」を示しています。

1 地球環境からみる人類の歴史 (P.9~12)

【授業のポイント】

1. 化石人類の歴史は、研究の進展により解釈が変更されてきたこと、今後も新たな発見により変更される可能性があることを理解させる。
2. 人類は長い年月をかけて全世界に拡大しながら、それぞれの環境に適応した生活スタイルを身につけたことを理解させる。

【教科書の整理】

① 地球環境の変化と人類の歴史

- (1) 地球の歴史=46億年前に太陽系とともに形成
元素・鉱物・岩石の変化から地球の変化(進化)を説明
地球環境の変化が自然界や動植物に大きく影響する
- (2) 人類の歴史=地球環境の変化に順応してきた生物(種)の1つ
人類は約700万年前に地球上に誕生した新しい種
現生人類は約20万年前に誕生し、現在まで生存してきた

教科書の発問① 46億年を1年の長さとして仮定すると、人類誕生は何月何日の何時何分になるだろう。
人類の歴史を歴史以外の分野の理論や成果を活用して考えさせる。【思考】

② 人類の起源

- (1) 先史時代=猿人の出現から文字記録の登場まで…人類の歴史の99.9%以上を占める
人類の骨・道具・生活様式・環境から人類の歴史を考える時代
- (2) 猿人の誕生=約700万年前にアフリカに誕生した最初の人類
類似猿(チンパンジーなど)から分岐、直立二足歩行を始める
サヘラントロプス(トゥーマイ猿人)、アウストラロピテクスなど誕生
簡単な打製石器を使用…類人猿との違い
- (3) 原人の誕生=約240万年前にアフリカに誕生し、アフリカから移動した人類
ユーラシア大陸の各地に移動し、そこに定住…ジャワ原人、北京原人など
子の養育期間が長期化…親子の強い結びつき
食糧採集活動や大型動物の狩猟活動をおこなう
打製石器を使用して狩猟・肉食を開始し、火も使用した
- (4) 旧人の誕生=約60万年前に誕生し、ヨーロッパ・中東・中央アジアに広がる
ネアンデルタール人…寒冷な気候に適応した人類
進化した打製石器を使用し、抽象的な概念も理解する…死者の埋葬など

③ 現生人類の登場

- (1) 新人の登場=約20万年前にアフリカに誕生、現代人の直接の祖先(ホモ・サピエンス)
約10万年前にアフリカを出て、1万2千年前には南アメリカ大陸南端まで
氷期には海面が低下し、大陸間や諸島間の移動が可能になる

教科書の発問② 旧人が滅亡し、新人が生き残った理由として考えられることは何だろう。
人類の歴史を単線的ではなく、環境に適応できた種のみが生き残ったことを理解させる。【思考】

クロマニヨン人(ヨーロッパ)、周口店上洞人(中国)など
道具作りの技術進化…剥片石器や骨角器など便利な道具を開発
機能的で効率的な生活が可能になる…狩猟活動や食材の調理など
打製石器を使用した狩猟・採集活動が中心…旧石器時代

「教科書の整理」は板書例としてお使い頂けます。

教科書に示されている問いを、「教科書の整理」の中で、適した位置に示しております。

観点別評価の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」のどれに相当するかも示しています。

- (2) 旧石器時代の文化=新人による創造的な文化が登場
洞穴壁画…フランス南西部～スペイン北部に約350か所点在
- (3) 氷期の終了=地球の温暖化→海面の上昇により、ほぼ現在と同じ地形が形成
大型動物の消滅、落葉樹林帯の拡大…植物性食物が食材の中心に
全世界の人口は1000~2000万人程度…地球上の多種多様な生物の1つ

【視点】 地球環境からみる人類の歴史

近年、アフリカ各地で人類の化石や痕跡が相次いで発見され、それまでの化石の証拠ではなく、遺伝情報の研究が進み、DNA鑑定などの科学技術が効果的に用いられることにより、人類の起源に関する研究は長足の進歩を遂げている。先史時代については、1つの化石の発見が従来の説を塗り替えていくことが十分に起こりうる。人類学は次々と新しい発見によって学説が書き換えられるダイナミックな分野である。

人類の起源と系譜については、概括的な知識が身につくように指導していきたい。以下に、先史時代の学習のポイントとなる点を6つ示したい。

1. アフリカに生息していた類人猿のうちで直立二足歩行するようになった猿人グループが人類の起源と考えられている。今のところ猿人が直立二足歩行を始めた時期と場所はおよそ700万年前の中央アフリカの樹木が比較的まばらな疎林であったと考えられている。
2. およそ250万~180万年前に猿人より大きな身体と脳をもつ原人があらわれ、約180万年前頃に彼らがアフリカを出て西アジアのグルジアをはじめユーラシア各地に住みついた。ジャワ原人や北京原人もそれぞれ原人の1つである。彼らはすでに火と打製石器を用いていた。
3. 70万年ほど前に旧人があらわれる。彼らは原人より進んだ石器を用い、現生人類と変わらない大きさの脳をもっていた。ヨーロッパの集団の一部がネアンデルタール人に進化したようである。彼らは約30万年前に登場し、4万年前には絶滅した。
4. 現代人までつながる新人は、20万年ほど前(一説によると30万年前)にアフリカで生まれた。彼らは10万年ほど前にアフリカを出て、世界各地に住みついた。この新人とそれ以前の原人や旧人とは直接的関係はないと考えられている。現代の世界に生きる我々の祖先(現生人類)はすべて、20万年前のアフリカで生まれて全世界に広まっていった(アフリカ単一起源説)。約1万2000年前には、この新人は南北アメリカ大陸に渡っていたと考えられている。各地で暮らしていた原人や旧人は絶滅したと考えられているが、その原因は不明である。
5. クロマニヨン人は新人の1つであり、彼らは高い性能をもつ石器や骨角器をつくり、それを用いて狩猟採

集生活を送っていた。また、すでに死についての知識や芸術についての感覚を有していた。

6. 猿人出現から現生人類が文字によって記録を残すようになるまでの時代を先史時代という。これは人類の歴史の99.9%以上に当たる。本教科書でこれから詳しく説明する人類の過去は、したがって、その長い歴史のうちの0.1%以下の時期についてである。

発問 p.9 46億年を1年の長さとして仮定すると、人類誕生は何月何日の何時何分になるだろう。

解答例 地球の歴史46億年を1年のカレンダーに見立てると、人類が誕生した約700万年前は、12月31日午前8時30分頃であり、大晦日の朝になってようやく人類は登場した。農耕や牧畜が始まる約1万年前は午後11時59分近くであり、産業革命が始まるのは午後11時59分58秒頃である。

解説 人類の有史時代は地球全体の歴史からみると瞬きの瞬間ほどしかない。また、人類の歴史を1年のカレンダーに見立てると、猿人誕生が1月1日、原人の誕生は8月下旬となる。現生人類であるホモ・サピエンスの登場は12月21日となり、ホモ・サピエンスの時代が始まったのは人類全体で考えるとつい最近のことであり、全体の歴史のなかで3%を占めるにすぎない。地球全体での人類の歴史は一瞬の出来事であり、その人類の歴史のなかでも歴史が残されている時代は人類史全体の3%ほどしかない新人のさらに0.03%ほどでしかない。

発問 p.11 旧人が滅亡し、新人が生き残った理由として考えられることは何だろう。

解答例① 旧人は寒冷な気候を生き延びるために体を適応させ頑丈でがっしりした体格に変化した。その分、より多くのエネルギーを必要とし、力づくで獲物を仕留めていたと考えられる。新人は細くて華奢な体で力が弱かったが、長く遠くまで歩ける利点を活用し狩猟技術を発展させた。寒冷な気候に対し脳が適応したため、寒さをしのぐ道具や生活様式を発達させ、より寒冷な土地にも適応することが可能となり、生き残ることができたと考えられている。

解答例② 旧人は新人に比べて力が強かったため、体を大型化させることで環境に適応してきた。狩猟の競争相手が少なければこの方法で生き残ることは可能であったかもしれない。しかし、狩猟技術で狩猟が可能であり、寒さに対する

教科書にある問いについては、すべて解答例と解説が丁寧に示されています。

そのほか「視点」「用語の解説」「図版の解説」など授業の用意に便利な内容となっております。

世界史探究教科書共通

教師用指導書 研究編

B5判・504頁 定価5,500円(10%税込)

山川出版社の世界史探究教科書で共通してご使用いただけます。大きいテーマを扱う「基本考察」、各用語ごとの「用語解説」、「エピソード」、「参考文献」を『詳説世界史』の配列に沿って記しています。 →p.27

教師用指導書 授業実践編 付属データ集

世探706準拠



『教師用指導書 授業実践編』にはデータ集DVD-ROMが付属します。
授業準備やテスト問題の作成に、ぜひご利用ください。

付属データ集DVD-ROM 収録予定コンテンツ一覧

教科書データ	①教科書紙面	PDF	教科書全ページの紙面データ
	②教科書本文・注・史料テキスト	Word	本文・注・史料のテキストデータ
	③教科書掲載地図・図表	JPEG	カラー・モノクロ2種の画像データ
	④教科書掲載問い・解答例一覧	Excel	問いと解答例の一覧
	⑤指導書紙面	PDF	指導書全ページの紙面データ
	⑥板書例テキスト	Word	板書例のテキストデータ
	⑦年間指導計画・評価規準例	Excel	カリキュラムにあわせて加工が可能
教科書準拠教材	⑧授業用スライド	PowerPoint	教科書の節ごとに構成 問いの解答例も収録
	⑨授業用スライド対応ワークシート	Word	スライドに対応したワークシート
	⑩準拠テスト例	Word	小問ごとに観点別評価を明記 テストに対応したルーブリック(評価規準表)例付き
	⑪準拠ノート	PDF Word	『新世界ノート』の紙面データ
	⑫白地図集	JPEG	プリント用・黒板用2種の画像データ

⑧授業用スライド PowerPoint

- 教科書の節ごとに構成されています。学習のポイントを明示し、要点を理解しやすく工夫しています。
- 授業スタイルにあわせてアレンジが可能です。
- スライドに対応したワークシート(Word)もご用意しています。

新世界史p.22~25

第2章 古代文明の特質

2 古代オリエント

シムメル人の都市国家

- ・ウル・ウルク・ラガシュなど(ティグリス川とユーフラテス川の両大下流域)
- ・王による支配: 政治・軍事・祭祀の権限独占
- ・楔形文字の発明: 粘土板に記録、『ギルガメシュ叙事詩』の成立、他の民族も使用する
- ・六十進法の発明、1週7日制の採用、太陰暦の採用

2-2 古代オリエント

資料から考える 古代オリエントの諸勢力の変遷

Q エジプトとメソポタミアにおける国家・王朝の興亡の違いを地形的な要因から考えてみよう。

前2000年頃のオリエント 前1500年頃のオリエント

⑩準拠テスト例 Word

〈1章ごとにA4約10枚収録〉

- 教科書の章ごとに構成されています。
- 小問ごとに観点別評価を明記しています。
- 様々なパターンの出題形式を用意しています。

生徒A: アッシリア帝国は、前7世紀頃にオリエントを統一した国だよ。

生徒B: そうだよ。アッシリア帝国の滅亡後、4つの王国が分立したあとは、アカイメネス朝ペルシアがオリエントを支配したね。アカイメネス朝は、アッシリア帝国よりも長くオリエントを支配したんだ。

生徒A: どうしてアカイメネス朝は、アッシリア帝国よりも長くオリエントを支配できたんだろう。

生徒B: それは、(I)という違いのためだよ。

生徒A: 征服した民族に対する扱いに、大きな違いがあったんだね。

生徒B: また、アカイメネス朝ペルシアでは、火を崇拝する(ii)が信仰されたんだ。現在でも、火にはアフラムズダが宿るため、火葬ではなく鳥葬をおこなう地域もあるみたいだよ。

生徒A: 鳥葬は、肉食の鳥類に遺体を食べさせる葬儀のことだよ。世界には、古来に生まれた習慣が根づいている地域が多くあるんだね。

問1 会話文中の空欄(i)に当てはまる語句を答えよ。【知識・技能】

問2 会話文中の下線部①について、首都の名称と地図中の位置あ・いの組合せとして正しいものを、下のア～エから1つ選べ。【思考・判断・表現】

ア、スサーあ イ、スサーい ウ、ニネヴェーあ エ、ニネヴェーい

問3 会話文中の空欄(I)に当てはまる文を60字程度で答えよ。【思考・判断・表現】

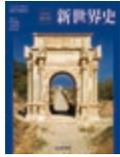
問4 会話文中の空欄(ii)に当てはまる語句を答えよ。【知識・技能】

問題ごとに【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】のいずれに相当するのかわを示しています。

- 準拠テスト例に対応した「ルーブリック(評価規準表)例」を収録しました。A・B・Cの具体的な規準を例示しています。

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する
知識・技能	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について総合的にとらえて理解しているとともに、複数の資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について理解しているとともに、複数の資料から情報を調べまとめる技能を身につけている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質についての理解や、資料から情報を調べまとめる技能が十分に身につけていない。
思考・判断・表現	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質に関わる諸事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目し、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質に関わる諸事象について、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質に関わる諸事象について、資料の読み取りが不十分で、適切な考察にもとづき表現していない。
主体的に学習に取り組む態度	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について、みずから関心をもって学習に取り組み、振り返りを効果的に活用し、課題を主体的に探究しようとしている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について、みずから関心をもって学習に取り組み、振り返りを活用し、課題を探究しようとしている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について、学習への取り組みが不十分で、振り返りを活用できていない。

年間指導計画・評価規準例 (※3単位、年間105時間)



学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての素養・能力を育成することを旨とする。

使用教科書・副教材

教科書：『新世界史』
副教材：『新世界ノート』
『詳説世界史図録』

部・章	節	配当時		学習内容とねらい
		月	授業時数	
第I部 世界史へのまなざし 第1章 人類の歴史と私たち	1 地球環境からみる人類の歴史(第1部扉含む)	4月	1	・人類の歴史を地球の形成や生命の誕生という長い変化の過程に位置づけたときに、人類の歩んできた古代文明の時間さえほんの一瞬にしかすぎないことを理解する。地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性に気付く。 ・人類は地球の自然環境に制約を受けながらも、進化の過程で環境に適応する手段や能力を獲得して生き残ってきたことを、歴史学のみならず地球物理学、生物学、人類学、考古学などの成果も取り入れて理解する。
	2 日常生活からみる世界の歴史		2	・身の回りの衣食住に関する事象の中で、特に世界との関わりが大きい食をテーマに取り上げ、自分たちの食生活が長い時間と多くの地域・国との関わりの中で日本にもたらされ、定着したことを理解する。 ・世界商品として全世界で取引されている砂糖・茶・コーヒーが、どのような過程で原産地から世界に広まり、どのように原産地以外で生産が拡大したのか、そのために生産地にどのような変化をもたらしたのかを理解する。
第II部 諸地域の歴史的な特質の形成			3	・今日の政治や社会の基礎的仕組みや考え方が、これから学ぶ古代にすでに出現したことを気づく。 ・引用資料や地図、図版を通し、これから学ぶ古代で、都市から国家が誕生し、都市国家が発展して中央集権的な、法に基づいた、宗教を背景とした支配をおこなう帝国に発展することに気付く。
第II部 諸地域の歴史的な特質の形成 第2章 古代文明の特質			1	・食糧生産の開始が人類の暮らしや技術、活動を変化させ、その変化によって生活が安定し、定住するようになったこと、そして都市の出現が国家の誕生につながったことを理解する。 ・地球全域に拡散した人類は、それぞれの地域に適応して身体的特徴や習慣によって区分されているが、その区分は絶対的なものではないことに気付く。
第2章 古代文明の特質	1 古代オリエント	1	・メソポタミアとエジプトの地理的特質を把握し、大河流域での灌漑農業の展開から古代文明が形成された推移を理解する。 ・メソポタミア文明とエジプト文明の共通点と相違点を把握し、古代文明の特質を理解する。 ・東地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明の展開とエーゲ文明の持つ意義を理解する。	
	2 古代オリエント	1	・メソポタミアとエジプトの地理的特質を把握し、大河流域での灌漑農業の展開から古代文明が形成された推移を理解する。 ・メソポタミア文明とエジプト文明の共通点と相違点を把握し、古代文明の特質を理解する。 ・東地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明の展開とエーゲ文明の持つ意義を理解する。	
	3 古代の南アジア・東南アジア・オセアニア	1	・南アジアの地理的特質を理解し、古代文明が成立した背景、独自の宗教・社会制度などが形成された経緯を理解する。 ・東南アジアやオセアニアの地理的特質を理解し、インドシナ半島から太平洋の島々に人類が広がっていった様子を理解する。	
	4 古代の東アジア	1	・ユーラシア大陸東部の地理的特質を理解し、モンスーン気候が古代文明の成立にどのような影響をあたえたのか気付かせる。 ・黄河と長江の流域ではそれぞれ農耕文明が形成され、新石器文化が発達したことを理解する。 ・黄河流域で初めて王朝国家が形成され、青銅器文化が高度に発達して、そこから殷・周の古代王朝が生まれたことを気付かせる。	
第II部 諸地域の歴史的な特質の形成 第3章 アジア諸地域の国家と社会	5 アフリカと南北アメリカ	1	・アフリカの地理的特質を理解し、古代アフリカで形成された古代国家の生活・文化・社会について理解する。 ・南北アメリカの地理的特質を理解し、独特の農耕文化が形成された背景と古代国家の特徴を理解する。	
	1 中国帝政国家の形成	1	・東アジアの自然と文化から殷周王朝と秦漢帝国の成立までの東アジアの文化・宗教の原型を理解する。 ・秦漢帝国の形成と拡大について理解する。	
	2 北方ユーラシアの動向	1	・スキタイや匈奴による遊牧国家の形成と拡大について理解する。	
第3章 アジア諸地域の国家と社会	3 分裂と融合の時代	1	・北方遊牧民の動向が魏晋南北朝時代の分裂と動乱の時代に与えたことに気付く。 ・中国の儒教や道教の誕生、東アジアへの仏教の伝来などのほか、秦漢帝国と近隣諸国との冊封関係の構築や匈奴・鮮卑などの動向を理解し、東アジアに特有の国際関係が形成されたことに気付く。	

科目全体の評価の観点(指導要領の目標)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

知識・技能	評価の規準		評価方法
	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
人類の歴史は地球上の生命の歴史の中ではほんの一瞬であること、そして人類は多くの道具や技術を生み出してきたことを理解し、整理できる。	人類の歴史は単線的ではなく、いくつかの可能性があった中で、環境に適応できた種のみが生き残ってきたことを考察している。	文明以前の人類の歴史を、歴史学以外の分野の理論や成果を理解し、活用しながら多面的に追究しようとしている。	定期考査 課題レポート グループ協議
私たちの生活の中で当たり前のように存在している食材について、それらがどこを原産地とし、どこで栽培されるようになり、どのように全世界に普及したのかを整理できる。	世界商品として流通した砂糖・茶・コーヒーが、どのような人々によって生産され、どのような人々が消費し、どのような人々がその利益を得たのかを考察している。	人々の生活に潤いをもたらす世界商品の生産・流通・販売について、その問題点と解決のための視点を探究しようとしている。	定期考査 課題レポート グループ協議
諸地域の古代文明・古代国家・古代帝国の出現、出来事を年表や資料を適切に活用して、諸地域の多様性や形成された特質に気付く。	諸地域の古代帝国が、どのように他地域の人々を統治したのか、統治下ではどのような政治的・経済的・文化的変化がおきたのかを考察している。	古代帝国の強力な支配について、その問題点とその後の世界、他地域への影響を多面的に探究しようとしている。	課題レポート グループ協議
・人類が農耕・牧畜を開始して国家を形成することになった要因を理解し整理することができる。 ・人類を区分する人種・民族・語族の根拠を理解している。	・都市化が進んだことが、どうして国家に形成に結びつくのかを考察している。 ・人類を区分する基準が、負の側面も持っていることを考察している。	・都市化によって古代文明の形成が進んだが、都市化を伴わない文化を形成した地域も存在するなど、古代文明の多様性について探究しようとしている。	定期考査 課題レポート グループ協議 研究発表
・メソポタミアとエジプトで発展した古代文明の基本的知識を身に付け、その歴史的意義を理解している。 ・古代オリエント世界の影響を受けたシリア・パレスチナ地方やエーゲ海周辺の基本的知識を身に付け、その歴史的意義を理解し整理することができる。 ・[資料から考える 古代オリエントの諸勢力の変遷]の地図、写真を活用し、メソポタミアとエジプトを比較できる。	・メソポタミアとエジプトの神権政治の特質を理解し、その違いが生まれた背景を考察している。 ・メソポタミアの六つ進法など古代文明の発明が現在の私たちの生活にまで影響を及ぼしていることを考察している。 ・シリア・パレスチナ地方やエーゲ海周辺の神権政治の特質を理解し、古代オリエント世界の神権政治と比較して考察している。	・メソポタミアとエジプトの古代文明がその後の歴史に与えた影響を探究しようとしている。 ・シリア・パレスチナ地方やエーゲ海周辺で発展した古代文明が東西諸民族の文明形成に与えた影響を探究しようとしている。	定期考査 課題レポート グループ協議
・インダス文明が他の文明と同様に高度な都市文明を築いていたことを理解する。 ・東南アジアやオセアニアの古代社会に基本知識を身に付けている。	・南アジアの王朝の展開を理解し、王朝の興亡と多様な宗教のつながりを多角的に考察している。 ・東南アジアでは東アジアや南アジアとの海上交易活動を通じて特色ある社会を形成したことを考察している。	・南アジア諸国家では、バラモン教やカースト制度などが社会の基盤になっていることを探究しようとしている。 ・東南アジアやオセアニアでは、人々の活発な活動が社会の基盤になっていることを考察しようとしている。	定期考査 課題レポート グループ協議
・東アジアの自然が中国、ベトナム、朝鮮、日本の国家形成に与えた影響を理解し整理することができる。 ・[資料から考える 中国文明の成立]から黄河流域と長江流域の文明の背景、特徴を理解している。 ・中国初期王朝の特徴を理解し、[資料から考える 殷・周時代の漢字]から漢字が国家の建設・運営に与えた影響を理解することができる。	・殷・周時代に発達した神権政治の特徴について、他の文明と比較しながら理解しようとしている。 ・初期王朝において王のあり方がどのように変化したのかを考察している。	・東アジアに成立した中華文明は、黄河や長江の流域と周辺地域との長い交流の歴史の中で形成されてきたことを探究しようとしている。	定期考査 課題レポート グループ協議
アフリカ大陸の自然環境は時代とともに大きく変化したことや4つの大河流域に形成された国家の特徴を理解している。 ・南北アメリカの古代文明と他の大陸の古代文明の共通点・相違点を考察している。	・アフリカ大陸に形成された古代国家は河川や海洋を通じて他の地域と交流し交易活動を展開していたことを考察している。 ・南北アメリカの古代文明と他の大陸の古代文明の共通点・相違点を考察している。	・アフリカ大陸に形成された国家の文化・社会・習慣などをまとめ、アフリカ大陸が開かれた大陸であったことを探究しようとしている。 ・南北アメリカ大陸の古代文明は他の大陸との交渉がない中で、独自の文明を形成したことを探究しようとしている。	定期考査 課題レポート グループ協議
・のちの中華帝国の原型となる秦漢帝国で形成された華夷思想、儒学と政治、歴史書の編纂の基本知識を理解している。 ・遊牧国家を形成したスキタイや匈奴の文化・政治・外交の基本知識を理解している。	・皇帝、儒学、歴史など中華文明の重要な要素が出現した意義を、3つのコラムを利用して考察している。 ・内陸ユーラシアの遊牧民とオアシス民が共生してきた背景を、2つの資料を活用して考察している。	・秦漢帝国の成立以来、中国の皇帝政治が2千年以上も続いた背景・理由を探究しようとしている。 ・遊牧国家と農耕国家は歴史とどのような関係性があったのかを探究しようとしている。	定期考査 課題レポート グループ協議
・華北には遊牧民が進出して新しい制度を中国社会に定着させる一方、江南ではその後の中国文化に影響を与える文化が形成されたことを理解している。	・魏晋南北朝時代の政治経済の変化や中国と周辺国家の形成の関係をコラムを活用して表現しようとしている。	・北方遊牧民の王朝と江南漢族の王朝の対立と交流の歴史が、中国の政治・経済・文化に与えた影響を探究しようとしている。	定期考査 課題レポート グループ協議

指導者用デジタル教科書(教材) 学習者用デジタル教科書

世探704準拠 世探705準拠 世探706準拠

- デジタル教科書は「指導者用」「学習者用」とともに **[インストール版]** **[クラウド版]** をご用意しています。



※画像は『詳説世界史』のサンプルです。

サンプル版は
こちら！



指導者用



学習者用

※サンプルは『詳説世界史』より抜粋

★ご注文の前にご確認ください★

「指導者用デジタル教科書(教材)」と「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は、それぞれ別の商品のため、混同されないようご注意ください。

- 「指導者用デジタル教科書(教材)」は、教科書の電子書籍版に教材アプリの機能がついた商品です。

- 「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は紙面PDFや図版データ、スライド、準拠テスト例などが収録されたコンテンツ集です。

⇒p.28 ⇒p.58
⇒p.84

教師用指導書 授業実践編付属データ集DVD-ROM

教科書紙面PDF

教科書図版データ
JPEG

教科書テキストデータ
Word

指導書紙面PDF

授業用スライド
PowerPoint

準拠テスト例
Word

評価規準例
Excel

「指導者用デジタル教科書(教材)」と 「学習者用デジタル教科書」の違い

- ビューアの基本機能(ズーム表示や書き込み等)は「指導者用」「学習者用」共通です。
- 「指導者用」には、授業に便利な独自のアプリ機能がつきます。
- 価格は(⇒p.92)をご覧ください。

「指導者用デジタル教科書(教材)」 「学習者用デジタル教科書」 共通機能

	検索	用語を入力して掲載ページを検索・移動します。		道具	タイマー、ふせん、ポインター、リンク貼り付けなどが使用できます。
	ペン マーカー	色、透明度、太さの設定が変更できます。		記録	書き込みをした内容の保存、読み込みができます。
	図形 スタンプ	図形は色、透明度、太さが選べます。スタンプは初期登録の素材の他、画像データを読み込んで貼ることができます。		表示設定	全画面表示への切替や、紙面上のクリックポイントの表示などの設定ができます。
	消す	消しゴムでの部分消去や全消去、「元に戻す/やり直す」操作ができます。		ズーム	紙面の拡大表示ができます。
	リンク	教科書紙面の二次元コードは動画や文書のアイコンとなっており、動画視聴Webサイトや関連コンテンツへとリンクします。※オンライン環境が必要です。			

「指導者用デジタル教科書(教材)」 独自機能

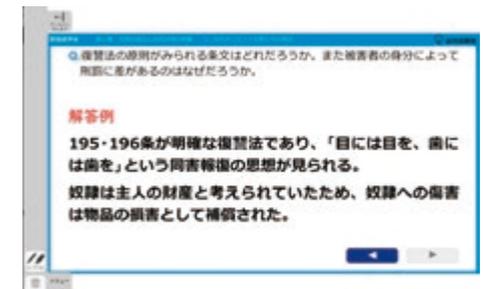
●地図・グラフアプリ

アプリアイコン がついている地図・グラフは、凡例(領域・矢印など)やデータ系列ごとに表示/非表示の切替えができます。必要に応じて、特に説明したい要素だけを表示することができます。



●Q&Aアプリ

デジタル紙面の発問の部分をクリック/タッチすることで、問いかけに対する解答例のスライドを表示することができます。
(問いかけのスライド・解答例のスライドをボタンで切り替えることが可能です)



指導者用デジタル教科書(教材) / 学習者用デジタル教科書

「インストール版」と「クラウド版」の違い

- 「インストール版」はDVDを納品します。各端末にインストールしてご利用ください。
※リンク先のサイトに遷移する際は、オンライン環境が必要となります。
- 「クラウド版」は各端末のブラウザでクラウドサーバーにアクセスしてオンライン環境にてご利用ください。

【インストール版】

【同一の学校建物内の指導者用端末に限りインストール数の制限なし】

- (インストール方法①) 各利用端末に直接インストールしてご利用ください。
※端末インストール(スタンドアロン)はWindows PCのみの対応となります。
- (インストール方法②) DVD-ROMに収録されているデジタル教科書のデータを学校・教育委員会等に設置されているWebサーバーにアップロードして各利用端末からアクセスしてご利用ください。 ※ファイルサーバーは動作保障環境の対象外です。

【クラウド版】

【校内フリーライセンス】

- 小社からライセンス証・学校管理者向けスタートガイドをお送りします。スタートガイドに沿って初期設定の作業をしていただくことで、完了後、ライセンス証記載のご利用開始日よりご利用いただけます。
- オンライン環境にて、各利用者端末から当社指定のクラウドサーバーへアクセスしてご利用ください。

指導者用 / 学習者用 デジタル教科書 商品概要

	指導者用デジタル教科書(教材)	学習者用デジタル教科書
税込み価格 (本体価格) ※インストール版、 クラウド版共通	①教師用指導書授業実践編 付属データ集DVD-ROM付 1冊 ②教師用指導書研究編 1冊 ③指導者用デジタル教科書 3点セット価格 定価55,000円(10%税込) (本体50,000円)	1人につき 定価1,100円(10%税込) (本体1,000円)
インストール版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
クラウド版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
ライセンス形態	学校内フリーライセンス ご購入いただくことで、学校内の指導者用端末で何台でもご利用が可能です。ライセンス有効期間は4年間となります。	1ユーザー1ライセンス 必要な人数分のライセンスをご購入いただき、学習者用端末でご利用ください。紙の教科書のご利用期間中はライセンスが有効となります。
利用者端末 動作環境	動作保証環境 ●iPad OS [®] ブラウザ: Safari ●Chrome OS [®] ブラウザ: Google Chrome ●Windows 10/11 ブラウザ: Microsoft Edge・Google Chrome ※iPad OS・Chrome OSはクラウド版、または学校内Webサーバー環境のみご利用可能。インストール版(DVD版)の端末インストールはご利用いただけません。	
基盤システム	デジタル教科書の提供・表示ビューアの基盤となるシステムとして「みらいスクールプラットフォーム」(https://www.mirai-school.jp/platform/)を採用しています。 専用のビューアはMicrosoft Edge、Google Chrome等のブラウザで動作します。	

※紙の教科書をご採用いただいた場合に限り、対応する「指導者用デジタル教科書」「学習者用デジタル教科書」のライセンスをご購入いただくことが可能です。

※本資料のデジタル教科書の画面イメージ・記載内容は開発中の情報を含むため、製品版において変更になる場合があります。

約13,000点の地歴コンテンツが定額制で使い放題!

Webの **社 会 科 準 備 室**

山川&二宮ICTライブラリ

山川&二宮ICTライブラリは、地理・歴史の教育コンテンツを定額制でご利用できるWebサービスです。

図表
年表

地図

グラフ
統計



スライド

動画

プリント

●簡単検索!

フリーワード検索はもちろん、科目・時代・分野・地域やコンテンツの種類にチェックを入れるだけで簡単に検索・絞り込みができます。また、2022年5月より〈書籍別検索〉機能を追加。関連するコンテンツのリンク機能も充実し、さらに便利になります。

●コンテンツ解説文

画像や動画には解説文がついています。生徒の興味や関心を引き出すための導入や、プリント作成時の参考文献として活用できます。

●マルチデバイス対応

ひとつのアカウントで、パソコン・タブレット・スマートフォンなど様々なデバイスからご利用になれます。

ご利用中の先生の声

これまで190校を超える学校様にご採用いただきました!

- ・Google動画や自然地理アニメなど活用しています。(東京都私立高校)
- ・指導書を個別に購入するよりもコストパフォーマンスがよく、価格相応と感じます。(静岡県公立高校)
- ・授業準備の時間が短縮されました。マルチデバイスは便利です。(東京都私立高校)
- ・コンテンツがクラウドにあるので、ROMからダウンロード等の手間がなく、大変効率的です。(大阪府私立高校)

まずは無料トライアルを!

法人向け定額制コースをご検討の学校様には、ほぼすべてのコンテンツを2週間お使いいただける〈無料トライアルパック〉をご用意しています。詳しくはこちらのサービスサイトをご覧ください。▼

料金プラン

法人向け定額制コース **77,000**円/年(税込)

- ・地理歴史・公民科にご在籍の先生でしたら何名様でもご利用できます。
- ・同一敷地内の中高一貫校様は、中学校・高等学校ともご利用になれます。

個人向け定額制コース **1,320**円/月(税込)

- ・クレジットカード決済のみのお取り扱いとなります。
- ・領収書の発行も可能です。

サービスのお申し込み/
詳しいご説明はこちらから

<https://ywl.jp/service>



ICTライブラリ サービスサイト 検索

世界史探究 著作者一覧

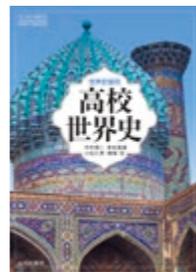
(2023年3月現在・五十音順)



詳説世界史 世探704

世界史の枠組みを体系的に学べる信頼の教科書

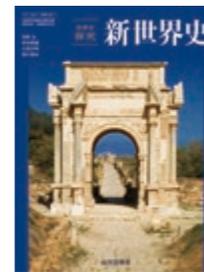
- ★バランスよく、わかりやすい丁寧な記述
- ★時代の特色をつかむ多様な問いかけ
- ★探究活動に取り組みやすい大きな図版・豊富な史資料



高校世界史 世探705

基本をおさえて、資料で深める

- ★要点をおさえた、わかりやすい教科書
- ★「探究」の構造を理解できる、問いを中心とした展開
- ★資料読み解きのスキルが身につく



新世界史 世探706

考える歴史の時代に向けて新しく生まれ変わった『新世界』

- ★現代世界を知るための歴史的視座を養う教科書
- ★「考える」「理解する」「追究する」教科書
- ★図版・地図・史資料を読み解く力がつく教科書

林 佳世子 (はやし かよこ)

東京外国語大学学長

オスマン帝国史

- 詳説世界史
- 高校世界史



小豆畑 和之 (あずはた かずゆき)

東京都立西高等学校教諭

世界史教育

- 高校世界史
- 歴史総合707



岡本 聡 (おかもと さとし)

白陵高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



加藤 修治 (かとう しゅうじ)

武蔵高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



木村 靖二 (きむら せいじ)

東京大学名誉教授

ドイツ近現代史

- 詳説世界史
- 高校世界史



千葉 敏之 (ちば としゆき)

東京外国語大学教授

ドイツ中世史

- 新世界史



藤本 和哉 (ふじもと かずや)

筑波大学附属高等学校教諭

世界史教育

- 詳説世界史
- 歴史総合708



阿部 幸信 (あべ ゆきのぶ)

中央大学教授

中国古代史

- 詳説世界史
- 高校世界史



小川 正樹 (おがわ まさき)

函館ラ・サール高等学校教頭

世界史教育

- 新世界史



仮屋園 巖 (かりやどの いわお)

東京都立国立高等学校教諭

世界史教育

- 高校世界史
- 歴史総合707



久保 文明 (くぼ ふみあき)

東京大学名誉教授・防衛大学校長

アメリカ現代史

- 新世界史
- 歴史総合708



丹羽 敬 (にわ たかし)

元愛知県立明和高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



南川 高志 (みなみかわ たかし)

京都大学名誉教授・佛教大学特任教授

古代ローマ史

- 新世界史



池田 嘉郎 (いけだ よしろう)

東京大学准教授

ロシア近現代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 歴史総合707
- 中学歴史



小田中 直樹 (おだなか なおき)

東北大学教授

フランス社会経済史

- 新世界史
- 歴史総合708



岸本 次司 (きしもと つぐし)

元鳥取県立鳥取西高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



小松 久男 (こまつ ひさお)

東京大学名誉教授

中央アジア近現代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 歴史総合707



橋場 弦 (はしば ゆづる)

東京大学教授

ギリシア古代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 中学歴史



宮本 英征 (みやもと ひでゆき)

玉川大学准教授

世界史教育

- 高校世界史



石井 栄二 (いしい えいじ)

東京都立国立高等学校

世界史教育

- 詳説世界史



勝田 俊輔 (かつた しゅんすけ)

東京大学教授

アイルランド近代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 新世界史
- 歴史総合707



岸本 美緒 (きしもと みお)

お茶の水女子大学名誉教授

中国明清史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 新世界史
- 歴史総合707



島田 竜登 (しまだ りゅうと)

東京大学准教授

南アジア史・東南アジア史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 歴史総合707
- 歴史総合708



羽田 正 (はねだ まさし)

東京大学特任教授

イスラーム史

- 新世界史



村上 衛 (むらかみ えい)

京都大学准教授

中国近代史

- 詳説世界史
- 高校世界史



山川出版社ホームページ 収録データ 一覧

下記データは小社ホームページにアクセスしてご覧ください。

Topic!

● 観点別評価集計表 Excel

観点別評価の集計に便利なExcelファイルをご用意しました。
学校の先生が実際に使用しているシートです。
ホームページよりダウンロードしてご活用ください！



● 世界史探究教科書の紹介ページ

- ・教科書の特徴紹介
- ・教科書ダイジェスト版 PDF
- ・内容解説資料 PDF
- ・年間指導計画作成資料 Excel
- ・教科書紹介動画



● デジタル教科書

- ・商品概要
- ・サンプル版



● 教科書の訂正内容のお知らせ



● 山川 & 二宮ICTライブラリ サービスサイト



世界史探究の授業展開案は『歴史PRESS』の特集号もご参照ください！

『日本史探究・世界史探究』特集号

- ・歴史PRESS No.7 新課程教科書 授業展開案 など
- ・歴史PRESS No.8 新課程教科書 授業展開案 など

こちらから
ご覧ください



山川出版社

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469

<https://www.yamakawa.co.jp/>